創刊50周年 新年号

画廊街の有望株が勢ぞろい！

イチオシ作家 2025

コレクター必見の30作家＋α

2025 1

月刊美術

No.592

Since 1975

富士岳龍神　絹谷幸二

Exhibition Review

展覧会レビュー 画廊街【百文字】評

藤田遼子展　夜の光
あらかわ画廊（銀座）
11・5―16

プールをモチーフにした作品をはじめ、植物や木々、童話に出てくるような人物。色彩を抑えた画面は吸い込まれるような深淵な世界。小さなプールを海に見立てた《海》は、よく見れば見るほど表現の豊かさを感じる、藤田さんの魅力が詰まった作品だった。Ⓣ

展示風景（藤田遼子展）

木村佳代子 VIS VIVA FLORA
ギャルリーためなが（銀座）
11・9―12・8

同画廊での初個展。新作40点余りが並んだ会場、各作品は花をモチーフとするが、一画面に一点のみを描く大胆な構成が何とも新鮮。そんな一連の作品を見ていると、かつて「劉生の首狩」と言われた岸田劉生の肖像画の数々を思い出した。聞けば「肖像」という意識は画家にもあるそうで、加えて画面構成には徹底的にこだわるとも。儚くも強い存在感を放つ花々は、「生と死」を内包する宇宙であり、それゆえひときわ美しい。Ⓕ

展示作品と木村さん

原澤亨輔・個展
東京九段耀画廊（市ケ谷）
11・11―17

〈美術新人賞デビュー2023〉準グランプリ。ネオンが照らす雨の横断歩道を行き交う人々や都会の街並み。日常の風景を幻想的に描いた作品が印象深いが、今回は非日常の世界を思わせる、より幻想的な作品に見入った。発表を重ね、広がる表現。今後がますます楽しみな作家。Ⓣ

展示風景（原澤亨輔・個展）

村山春菜 個展 ふじさん、あのね
松坂屋上野店（御徒町）
11・13―19

2024年の日経日本画大賞展でトップ賞を受賞した日本画家による個展。最大の特徴ともいえるウネウネとした線描と俯瞰の構図で、都市や建物、自動車などを描く。「日々の暮らしの中での発見と、現場でのドキドキするような思いを大切にしたい」と画家。一点一点に、エネルギーと感動を感じとることができた個展だった。Ⓦ

展示風景（村山春菜 個展）

酢平☆個展「白米おかわり3回目」
銀座中央ギャラリー第2
11・18―23

「どうぶつ×たべもの」シリーズでは食べ物を目の前にした喜びや

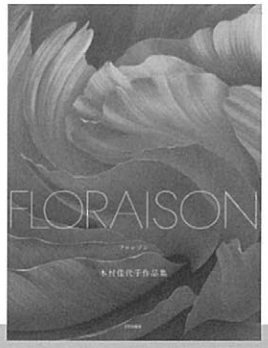
展示作品と酢平さん

ART BOOKS 新刊案内

定価表記は本体価格です。

FLORAISON 木村佳代子作品集

木村佳代子◉著　日貿出版社◉刊
A4変　127ページ　4000円



鮮やかに花を描きつつ宇宙や生命など普遍的テーマを探求する木村佳代子の10年間の活動をまとめた初の作品集。17歳で大病を患い、死の影に怯えながら大学時代を過ごした日々が、命を染めるような花図へと導かれたことがわかる。油彩作品90点。智内兄助との対談も収録。

熊田千佳慕の世界
愛するからこそ美しい

熊田千佳慕◉著　求龍堂◉刊
B5変　192ページ　2800円

広島の奥田元宋・小由女美術館で開催中の同名展（～2025年1月13日）の図録兼作品集。虫や動物などを独自の細密表現で描き、プチ・ファーブル、クマチカ先生などの愛称で親しまれた画家が亡くなって15年。虫の視点で世界を見つめることの大切さをいま一度見つめ直す。

窓から何が見えるか
西洋美術文化史と「窓」のイコノロジー

荻野昌利◉著　彩流社◉刊
四六判　156ページ　3000円

英文学とヴィクトリア朝文化の研究者が美術史の中に窓をたどる論考。デューラー、ブリューゲルからロマン主義をへて現代のホッパーやマグリットまで、絵画のなかで窓が示唆する意味を探りつつ、西洋近代自我の発達や文化への影響を考察する。図版がモノクロなので作品をネットで検索しながら読むといい。

小説集 蔦屋重三郎の時代

吉川英治、邦枝完二、国枝史郎、永井荷風◉著
作品社◉刊　A5判　248ページ　2400円

2025年NHK大河ドラマは江戸時代の版元・蔦屋重三郎が主人公の「べらぼう～蔦重栄華乃夢噺～」。本書は蔦屋がプロデュースした鶴屋南北、喜多川歌麿、葛飾北斎、曲亭馬琴、山東京伝、十返舎一九といった戯作者と浮世絵師を描いた小説アンソロジー。

絵葉書にみる日本近代美術100選

劉建輝◉著　法蔵館◉刊
四六判　144ページ　1600円

日露戦争を機に空前の大ブームとなった日本の絵葉書。有数の絵葉書コレクターであり、近代の日中文化交流研究家の著者が、展覧会絵葉書、京都画壇絵葉書、軍事郵便絵葉書など約100点をカラーで紹介する。従軍画家がイメージした「大陸」など東アジアの近代を映し出す。資料価値高い。